

# 2015年7月21日 掲載 輸送経済新聞

## 前期は減収減益 増税の反動響く

DTHD

第一貨物と太平興業を傘下につつディー・ティール・ホールディングス（本社・山形市、武藤幸規社長）の平成二十七年三上期連結業績は、売上高が前期比三・七％減の千四十七億七千六百万円、経常利益が同四三・

八％減の十三億三百万円で減収減益だった。

主力の物流関連事業、自動車販売事業とともに減収減益。物流では、トラック部門での消費増税による需要低迷に加え、ロジスティクス部門で主要顧客の売り上げ不振が長期化。運賃改善の成果や軽油値下がりがあったものの、減収の影響を吸収し切れず、減益となった。

た。第一貨物の業績は、売上高が同三・一％減の六百八十一億八千万円、経常利益が同九〇・六％減の七千万円。

自動車販売では、増税に伴い小型トラックを中心にとした新車や部品販売が減少。太平興業の業績は、売上高が同四・三％減の二百九十八億四千万円、経常利益が同一六・八％減の七億三百万円だった。また一日付で本社を、第一貨物の本社がある山形市諏訪町二ノ一ノ二〇に移転した。

（矢田 健一郎）